

いのちの海と空と大地



原発のない世界を求めて ニュースレター

発行： 日本聖公会「正義と平和委員会」原発問題プロジェクト

1. 夏の保養キャンプ 2017

これまでに引き続き下記のキャンプを計画しています。ご参加やお声かけ下さい。

① 8月17日（木）～23日（水）

Fukushimaリフレッシュキャンプ in ぎふ
郡上市八幡町小那比（小中学生対象）

* 山の中の専用施設で、川遊び、自然観察など自然の中で
思いきり遊ぶキャンプ。



② 7月24日（月）～8月5日（土）

（この間を3泊4日、4回に分けて同時期2家族ずつ実施）
長崎県高島町高島

* 世界遺産端島（軍艦島）の近くに位置する島
* サンゴ礁と夕日、星の美しい島。海水浴、シュノーケリング、釣りなど、家族でゆったり過ごします。



③ 2017年7月～2018年3月

ホームステイ in 沖縄

滞在場所：那覇市三原 三原聖ペテロ聖パウロ教会
* 滞在期間や滞在中の過ごし方など、相談しながら一緒に企画。

お問合せ先：池住 圭

2. 廃炉ってどうすればいいの？

原発の運転を止め、電力の送電系統から切離し、設備を解体する事が廃炉です。核燃料サイクル政策の破綻が明確となった現在、これ以上原発を再稼働し、行き場のない「使用済み核燃料」を増やすべ

きではありません。どうすればそれが出来るのでしょうか。

原発は通常の発電所と違って、運転を止めた後でも原子炉の中の燃料は核分裂が完全に止まらず、その後も長期間にわたり放射能や崩壊熱が発生し続けます。また、強い放射能により設備も放射化され汚染されているため、すぐには解体作業が出来ません。高線量の環境では人間が近づくことや作業そのものが困難です。ですから、人間の代わりに各種の解体作業を行うロボットの開発が必要です。

更に、廃炉と決められた原発は、残された核燃料をはじめ、全ての設備、機器を不良資産として損失計上しなければならなくなります。この様な損費の発生や、解体技術の困難は電力会社に廃炉の決断を鈍らさせていると考えられます。危険と分かっても廃炉の決断は経営上の危機を招く恐れがあるのです。

国策で進められてきた原発建設とはいえ、廃炉は電力会社だけでなく、私達国民も大きな決断がなければその方向に進めない状況にあると言っても過言ではありません。

それではどうすれば良いのでしょうか。以下の点について早急な解決が必要と考えられます。

① 使用済核燃料の高レベル放射性廃棄物の最終処分場や処分方法を決める

* 政府は2030年後半までに最終処分場を決定する計画ですがどこに決めるにしてもその受け入れには国民の負担と了解が必要となります。

② 高線量域における作業を可能にするロボット他の廃炉技術の開発

* 技術研究組合 国際廃炉技術研究開発機構（IRID）の一元的な取組が進められています。

③ 原発資産の損失計上による経営圧迫に関する税制・廃炉会計の見直し

* 廃炉の促進に向けて、国、電力会社、国民の合意に基づく決意を固めてゆく必要があります。

原発は、使用済み核燃料の安全な処分方法が決まっていない為、汚染廃棄物とともに中間貯蔵施設にたまり続けています。更に除染で発生した膨大なフレコンバッグも一時保管場所におかれたままになっているのです。そのことから、原発は《トイレの無いマンション》と言われます。解決策のどれをとっても巨額の費用がかかります。これから、その負担のありかたも含めて議論を深め、知恵を集め決意をもって解決してゆくことが必要です。私たちや後の世代の人々のかけがえのない命と生活を守るために今すぐにでも始めることが大切です。